11 月チャプレン便り

「子は、かすがい」

子供への愛情から夫婦の仲がなごやかになり、縁がつなぎ保たれることのたとえです。
鎹（かすがい）は二つの木材をつなぐコの字型に曲がった釘（くぎ）のことです。

ある保育園での出来事です。ある四歳児の男の子が、友だちや先生をかんだり、たたいたりしていました。そのような攻撃的な問題行動が多いので、専門のカウンセラーが、その子のお母さんと面会することにしました。 何回か面会を繰り返した後に、お母さんの口から出た話は、夫に別の女性ができて、帰宅しない日があること、それを責めても仕方がないので、あきられていること。ただし、家にいるときには、よく子どもと遊んでくれる父親であること―などでした。

お母さんも、子どもにだけは被害が及ばないようにしている―ということでしたが、その配慮は、溺愛（できあい）に近いものでした。溺愛とは、子どもの言いなりになるような育て方のことです。とくに子どもの欲しがるお菓子やおもちゃを要求のままに与え、子どもが命ずるままに、召使いのように、何でもしてあげてしまうことです。その結果、子どもは、わがままになってしまいます。

ある夕方、カウンセラーのもとに、突然、お父さんが現れました。時間外でしたが、大切な面接だと思いましたので、そのカウンセラーは、相談に応ずることにしました。
お父さんは、子どもの保育園での問題行動について心配して、相談にきたのでした。いろいろと子どもの問題行動について話し合っているうちに、最後に「思い当たることがあります」と言って帰っていきました。その後、お母さんとの面会で、夫がきっぱりと女性との縁を切った―ということでした。それとともに、子どもの保育園での攻撃的な問題行動も減少しました。また面会のたびにお母さんの表情が明るくなり、見ちがえるほど美しくなりました。もともと子どもと遊ぶことの好きなお父さんでしたから、子どももお父さんといっしょに遊ぶのを楽しみにして、その帰りを待っているということでした。

両親の愛情をしっかりとつなぎ留めている子どもの存在は、大きいですね。

聖書の言葉
「神を見た者は、まだひとりもいない。もしわたしたちが互に愛し合うなら、
神はわたしたちのうちにいまし、神の愛がわたしたちのうちに全うされるのである。」
ヨハネ第一の手紙　４章１２節

石川三育保育園チャプレン　北　睦　夫